

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902062		
法人名	株式会社グレース		
事業所名	グループホームあい		
所在地	旭川市川端町4条8丁目2-13		
自己評価作成日	平成25年3月4日	評価結果市町村受理日	平成25年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お互いの存在をよるこびとし、弱さは助け合うための美しいもので、互いを大切な者と感じ合えるよう生活します」の理念の共有と実践を旨として、日々事業所としての活動をしております。地域住民との交流も積極的に行い、地域に根差した地域に必要とされる事業所を目指しています。入居者さんが活動的に過ごせるよう体操・リハビリの他に午前と午後のレクも行い、楽しく過ごせるよう外出行事も盛りだくさんです。夏季はほぼ毎日散歩などの外出で少しでも外の空気に触れられるように心掛けています。さらにグループホームのマスコットとして犬の「あいちゃん」も入居者の皆様の癒しになっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172901068-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは静かな住宅街にあり、隣接地にデイサービスや高齢者下宿が併設されています。運営法人は他にもグループハウスを運営しており、高齢者を総合的にバックアップする体制を整えています。職員自身による研修を毎週テーマを決めて行ったり、外部評価で指摘された項目を改善するなど、ケアサービスの質向上に熱心に取り組んでいます。利用者がホームに閉じこもらないよう外出する事を心掛け、夏場は散歩の他ドライブや遠出の外出の機会を設けたり、冬場でも雪祭りや白鳥見学などいろいろ工夫して一日一度は外の空気に触れ、気分転換するようにしています。地域との関係も良好で、町内会の行事に参加するだけでなく、独居暮らしの方にホームでついた「お餅」を届けたり、ホームでのカラオケ交流会に地域住民が参加するなど地域との交流が盛んであり、災害時の協力関係も構築されています。また、看取りの経験もあり、職員のスキルアップに繋がっています。家族から信頼と安心を寄せられているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を復唱し、理念の共有に努めています。	ホーム内だけでなく玄関前の掲示板に理念を掲示してホームの目指すところを明らかに示しています。また、職員が常に意識するように毎日唱和しています。理念の他に介護の心がまえと今日の目標を決め、実践するようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事にも参加し、また町内会の方々を招いてのカラオケ交流会なども行っている。	敬老会、盆踊り、焼き肉パーティー等の町内会行事に参加したり、毎月ホームのカラオケ交流に町内の方の参加を頂いています。また、山菜取りに町内会長が利用者を案内してくれたり、毎月町内の方が絵本の読み聞かせや紙芝居を行ってくれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会役員を通じ発信しています。地域に向けてのイベントも企画中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域町内会の積極的な関わりもあり定期的に行っている。	町内会長、市職員、地域住民、利用者、家族、職員等が参加し2ヵ月毎に開催しています。行事案内や現状報告だけでなく地域の独居暮らしの情報などを得て餅を届けたり、地域住民から災害時の協力の申し出並びに山菜取りの提案などの成果が出ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも市職員などが参加している。	運営推進会議に市職員が参加しており、ホームの運営状況を報告しています。また、事故報告なども市に報告しているほか、生活保護制度の関係等を含め市と常に協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面での考慮の範囲以外は玄関の施錠を含めた範囲で取り組んでおり、身体拘束はシミュレーションを通して職員に啓蒙している。	職員は身体拘束防止のマニュアルに基づき何が拘束にあたるか理解しています。転倒防止のためにセンサーマットやベット柵を使用する時は家族から同意を得ています。玄関は夜間のみ施錠しています。「だめ」などのスピーチロックについても、職員と話し合い注意し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎週行われるシミュレーションでも機会を作り職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な家族には制度を案内し、また、職員も制度を学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や料金の改定など、必要に応じて説明し理解を図っていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。	管理者は、利用者並びに家族が話しやすい雰囲気づくりに努めており、利用者とは日々のコミュニケーションを大事にして気持ちを把握するようにし、家族は来訪時や電話で気楽に要望を伝え易いような環境を作っています。更に気楽に要望を伝えられるように、玄関にアンケート用紙を常設しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じ職員からの意見や提案を代表に伝え相談しています。	毎月のユニット会議や朝のミーティングの時に管理者は職員の意見、要望を聞き運営に反映しています。また、週1回テーマを決めてシュミレーションを行い、意見交換しています。管理者は職員面接も行き要望は代表者に伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の報奨金制度等あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護系資格取得の奨励や、研修委員会を作り研修しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他グループホームとも民謡教室などで交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシートや家族からの意見情報、前利用先からの情報などを含め点検し、本人の安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には必ず代表が家族と面談し、管理者を含め関係づくりを図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	してあげるではなく「させて貰う」という気持ちを持つよう代表からも指導されています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築くよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や美容院にも通えるよう支援しています。	友人が訪ねてきたときはお茶を出すなど、来やすい環境を作り関係が途切れないように支援しています。入所以前の趣味を支援したり、教会に行っていた方には送迎をしています。また、近くのグループホームに出かけ、知り合いの方に会う機会も作っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員でのリハビリやラジオ体操、レクなどで支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めていると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なフェースシート作成など意向調査をしていると思う。	管理者は、職員が気づいたことをミーティングなどで話し合い、また、日々の記録やフェースシートの中からも利用者の思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや家族からの意見情報、前利用先からの情報などを含め点検し、本人の安心できる環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人のアセスメントシートで現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、また必要に応じて担当者会議を開きケアプランに役立てている。	介護計画は本人の意向や家族の要望、職員の気付きなどをモニタリングを経て計画作成者が担当者担当者会議で相談しながら作成しています。。見直しは3カ月毎ですが、状況に変化があればその都度対応しています。	日々の日誌は細かく記載されていますが、介護計画の利用者のニーズと連動する形式で日々の記録が記載されていますので、目標と連動した記載の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人のアセスメントシートで現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会とのつながりや、地域の理容店の訪問理容を利用するなどしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染の医療機関を利用するなど支援している、	かかりつけ医の受診は家族が対応していますが、近い場合は職員が同行しています。協力医の訪問診療や訪問歯科も受信することができ、訪問看護師との医療連携も図られているなど適切な医療支援がなされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として訪問看護師の定期的な訪問で支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にそれぞれ情報共有しあいながら、医療機関と連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所としての（重度化と終末期の対応）について説明も行っている。また、入居者の状態変化時に家族と医師を交えながら話し合いの場を持っている。	入所時に家族に対して重度化や終末期の対応を説明し同意を得ています。ホームとしての限界を示しながら家族や医療関係者と協力して看取りを支援する方針です。「看取り介護確認書」と「重度化対応、終末期ケア対応指針」が作成されています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	シミュレーションや救命講習で事故対応を、また避難訓練や火災時のシミュレーションで火災訓練をしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフミーティングやシミュレーションで周知し、町内会とも運営推進会議の場で話し合っている。	年2回の避難訓練、スプリンクラーや火災通報システムが設置されているほか、救急救命講習を実施しています。また、緊急連絡網も整備されています。避難訓練に町内会の方の協力を頂いていると共に緊急連絡網にも加わって頂いています。非常時備蓄品も整備されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念や介護の原則のミーティング時の復唱と合同スタッフ会議での代表からの講習などで周知している。	利用者の尊厳を傷をつけないように、毎週シミュレーションで意見交換をしています。「だめ」などのスピーチロックに気をつけ、利用者の誇りを傷つけないようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の個人への声掛けや介護計画作成時にも個人の趣味嗜好を汲み取るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく暇な時間を作らないようレクやお手伝いをして頂いているが、その日の気分や体調も見ながら過ごしてもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人で洋服が着れない方は、一緒に洋服選びをしています。また、訪問理容なども定期的に行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえやおやつ作りを一緒に行ったり、おやつや食材の買い物も行ったりします。	調理師免許を持つ職員が利用者の希望を踏まえメニューを決めています。「おやつ」作りや食事の下ごしらえ、漬物作りなどできる利用者が職員と一緒に作っています。外食や誕生日のケーキ、冬場の鍋物、畑での収穫等利用者にとって楽しみとなっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的なケアプランの更新時に嗜好も聞き取ります。また食事や水分量はアセスメントシートやチェック表で管理しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	手洗いうがい同様、毎食後と起床時・就寝時にケアしています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツや尿パットを利用し、出来るだけトイレで排泄できるよう支援しています。	トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し、声かけ、誘導を行っています。尿意のない方も、リハビリパンツやパットを使用し、時間を決め誘導しトイレ排泄を支援しています。夜間のみポータブルトイレを使用したり、おむつを使用する方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューと、体操やリハビリで体を動かし、便秘の予防をしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	みかん風呂やゆず湯など季節を取り入れたお風呂を楽しんでもらっている。	基本的に週2回の入浴支援を行っています。状態によってシャワー浴や清拭の支援を行なっています。よもぎやミカン、ゆず湯などを入れ、変化をつけ利用者に喜んでもらっています。入浴を拒む利用者には職員の声かけの工夫などで入浴に繋げています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は平均午後9時ごろだが、その方の生活リズムに合わせて過ごしてもらっています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴じており、用法や注意事項はミーティングや連絡事項で確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理作りや味噌造り・漬物作りも一緒に行います。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は散歩にドライブ、行事外出。冬季はドライブやグループでお茶を飲みに出掛けたり出来るだけ外出の機会を持っています。また、夏場はテラスでお茶を飲んだりもしています。	夏場は毎日散歩や、テラスに出てお茶を飲むようにして外に出るように支援しています。ドライブにバスを使い、全員で出かける機会を多くつくっています。冬場も冬祭りの雪像や川に白鳥などの渡り鳥見物、そして大型ショッピングセンターに行くなど閉じこもらないよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金のある入居者さんも外出時に外食や買い物を楽しんでいます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は居室に電話機を設置しています。また、季節ごとに家族や友人に手紙を書くなど支援しています。暑中見舞いや年賀状など。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物の設置や季節感のあるホールのディスプレイなど居心地の良い環境づくりを目指しています。	リビングには大きなテーブルとソファが置かれ利用者は一日の大半をここで過ごしています。ホームの犬がリビングから、眺められ、利用者の楽しみとなっています。鳩時計が飾られており、時を知らせています。大きな窓から採光が十分入り、温度も、適宜調整されています。湿度も加湿器が置かれ乾燥に気をつけています。季節感のある、飾り付けを行い、居心地の良い空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル以外にも椅子とテーブルを置き居場所の工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはなるべく馴染みの生活用品や家具を持ってきてもらい居心地良く過ごせるように支援しています。	各居室にはクローゼットが備えられているが、その他は利用者一人ひとりの好みの家具やベット、仏壇、椅子やテーブルが置かれています。好みのカーテン、写真や装飾品が飾られ、居心地の良い空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレやエレベーターの表示などなるべく解りやすくするようにしています。			